

# 平成14年度 狹山藩陣屋跡 発掘調査報告書 II

平成15年(2003年)3月  
大阪狭山市教育委員会

## 1. 調査にいたる経過

本書で報告するのは本市教育委員会が発掘調査を実施した狭山藩陣屋跡02-02区の成果である。02-02区の発掘調査は当該地で行われる共同住宅建築に先立って実施したものである。発掘調査に際しては、開発者の株式会社東急不動産にはさまざまご配慮をいただき、調査地付近の住民のかたがたにはご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

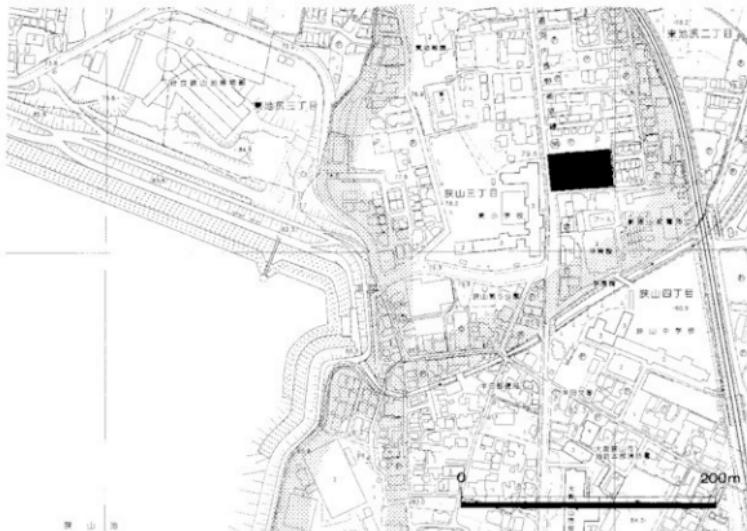


図1 調査区位置図 (S=1/5,000)

発掘調査に先立つ事前発掘調査は平成14年（2002年）4月25日に実施し、開発用地内における調査必要箇所の確認等を行った。本発掘調査は、平成14年（2002年）6月20日から同年7月29日まで実施した。共同住宅建設予定箇所で遺構および遺物包含層が確認された範囲のうち、平面調査が可能であった約250m<sup>2</sup>を調査区として設定した。

狹山藩陣屋跡は近世初期に北条氏によって造営された近世城館であり、以後、明治維新に至るまでの間、一貫してこの地に営まれていた。狹山藩陣屋跡は上屋敷と下屋敷にわかれしており、今回の調査地は上屋敷に含まれている。上屋敷は中央を南北に大手道（現在の府道美原河内長野線）が走り、もっとも北側に藩主の住む御殿が設けられていた。大手筋に沿っては大身の家臣の邸宅が並んでいたが、今回の調査地は明治初期に作られた「狹山藩陣屋跡上屋敷絵図」によれば下山氏の邸宅敷地および村上氏の邸宅敷地の一部に相当するものと思われる。なお、本市教育委員会では住宅開発や道路工事に際して狹山藩陣屋跡の発掘調査を継続的に実施しているが、これまでの上屋敷における発掘調査では、天明2（1782）年の大火災で形成された焼土層や灰層を境にして、大火以前の下層遺構面と、大火以後から幕末頃までの上層遺構面が確認されることが多い。

## 2. 遺 構

現地表面より50cm～60cm下に上層遺構面が存在した。現地表面から遺構面直上までに層位する淡黄灰色砂質土が遺物包含層となっている。上層遺構面のベース層は40cm～50cmの厚みがあり、その直下に存在する黄灰色粘土層の地表面が下層遺構面となっていた。狹山藩陣屋跡上屋敷の他の調査区において確認されている、下層遺構上層の焼土層等は検出できなかった。

まず、上層遺構の各々について概述する。東調査区西側で南北方向にのびる溝3は、幅50cm・深さ10cm・残存長2mを測る。溝3の西方、東調査区西端付近では、No.28の水鉢を埋めた土坑24を検出した。土坑24の深さは約8cmで、深さはNo.28の水鉢とほぼ同じである。土坑24の北西側、中央調査区北東端では、土坑23を検出した。径2m以上・深さ70cmを測る。中央調査区北半部では、3箇所において礎石状の石およびそれに伴う落ち込みを検出した。元の居住者のかたの話によると、かつてはこの場所に「ハナレ」が建っていたとのことで、近世後半から昭和初期までこの箇所に建っていた建物の礎石ではないかと推定される。中央調査区南半部では、土坑5・8・9・10・11・12・14・15・16・17・18・19を検出した。土坑5は内壁に石積をもつ土坑で、径65cm・深さ約25cmを測る。後述する門扉に伴う柱痕ではないかと推定される。土坑9は長径3.8m・短径1.3m・深さ56cmを測り、その埋土中からの出土遺物量が多い。土坑12・14は深さ7cm～20cmを測り、瓦片が多く出土した。西調査区東側では、調査区内での長さ2m・幅2.5m・深さ49cmを測る溝1を検出した。この場所には、先述した「ハナレ」に伴う門扉が昭和初期まで存在したとのことであり、溝1はこれに伴う区画目的の溝ではないかと推測する。よって溝1と先述した土坑5は、近世後半以後～昭和初期以前の遺構と推定される。西調査区西側では土坑1・土坑2・土坑3・土坑7を検出した。土坑1は長径1.9cmの不整形な平面形を成し、土坑2・土坑3・土坑7は径40cm～70cmを測り、深さはそれぞれ12cm～15cm程度である。

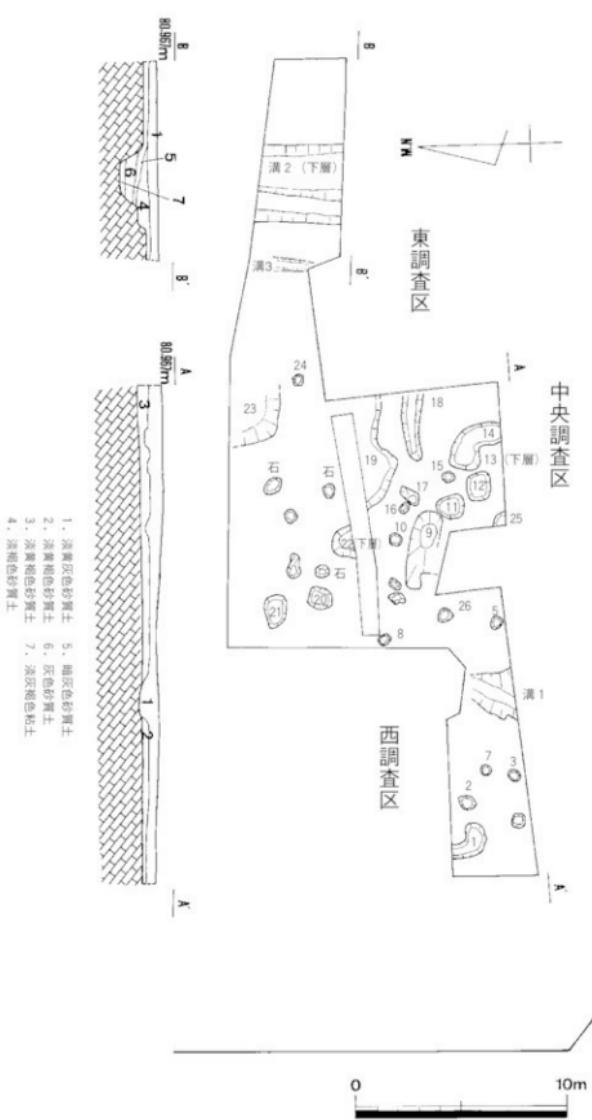


図2 遺構平面図

土坑3には漆焼きの壺が埋められていた。

つぎに下層遺構について概述する。東調査区東端付近では、南北方向にのびる幅3.7m（底幅1.6m）・深さ1.2mの溝2を検出した。西側の落ち込みはテラス状の平坦面を成して2段落ちになっている。邸宅敷地あるいは陣屋の東限を画する濠のようなものか、あるいは水路などの用途が想定されよう。中央調査区北半部中央では、土坑22を検出した。土坑の径1.5m・深さ約30cmを測り、内部で漆焼きの埋壺を検出した。この土坑内に埋壺は2個体存在し、先に埋められた壺が破損した後、この壺を破碎しながら新しい壺を埋設したようである。中央調査区南半部南端付近では土坑13を検出した。深さは約15cmを測り、内部からは瓦片が多く出土した。

### 3. 遺 物

狹山藩陣屋跡02-02区から出土した遺物の大半は上層遺構に伴うものであるが、下層遺構である溝2・土坑13・土坑22でも若干の遺物が出土している。個々の遺物については観察表に記載したとおりであるので、ここでは特色のあるものについて記述する。土坑23から出土した14の磁器大皿は、産地が肥前系で、高台部裏に「大明成化年製」の銘をもつ。生産時期は17世紀と考えられる。同じく土坑23から出土した38の陶器盤は、産地が肥前系で、生産時期は17世紀と考えられる。土坑11と土坑23からは土師質の土人形が出土している。土坑14から出土した軒丸瓦片の26と軒平瓦片の27は、その焼成状態からおそらくは17世紀以前に生産された瓦であると推測される。

### 4. まとめ

本調査区においては、この屋敷地内における近世後半以前の土地利用のようすを明確に把握するには至らなかった。しかしながら、中央調査区北半部においては建物跡を検出し、西調査区ではそれに通じる門扉の遺構を検出した。また、建物跡の南側にあたる中央調査区南半部では廃棄物を処理するための土坑群を検出した。また、東調査区東端では、下層遺構面において溝3のような大溝を確認した。大手筋沿いの箇所においては、今次調査区内においても遺構の検出数が少なく、また現有建物撤去時に行った立会調査でも明確な遺構を確認することができなかった。これは近世後半からの継続した土地利用のあり方にも起因するものと思われるが、他の屋敷地と比して、大手筋沿いよりもむしろ屋敷地中央寄りに主要な建物を配置していたのではないかと推測することもできる。また、東調査区東端で検出した大溝は、17世紀頃の陣屋あるいは屋敷地の東端を画する濠である可能性も残る。今後の隣接地における調査において、この大溝の性格が明らかとなるであろう。

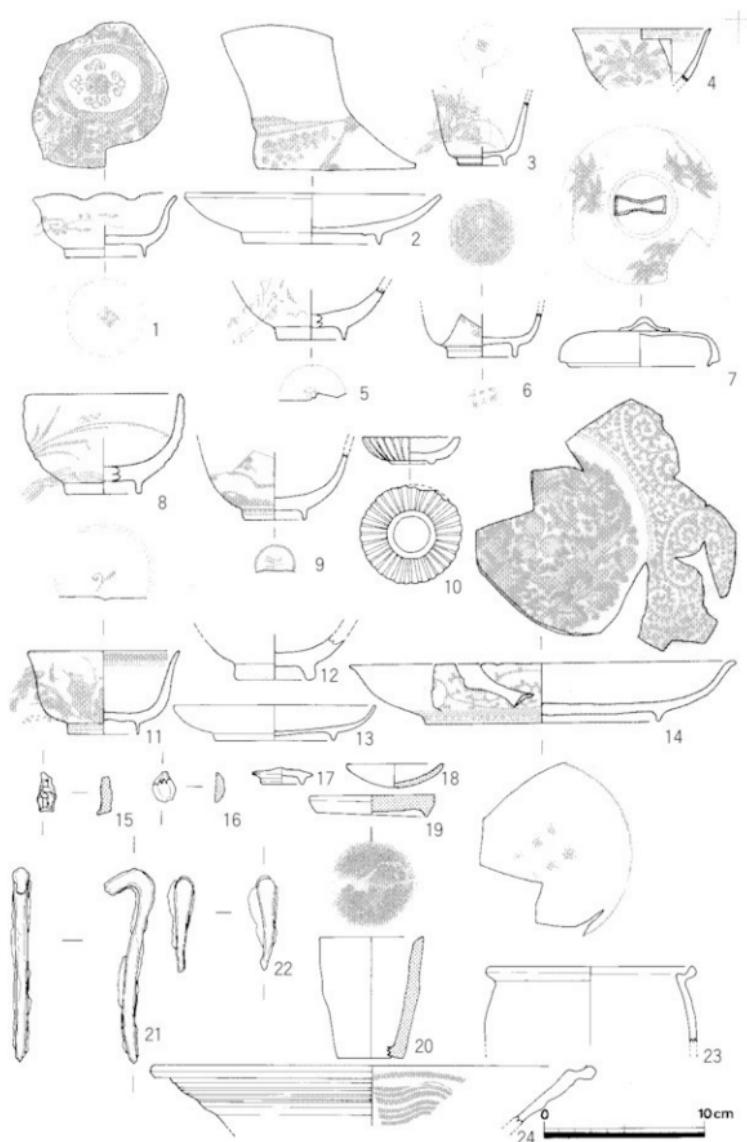


図3 出土遺物（1）

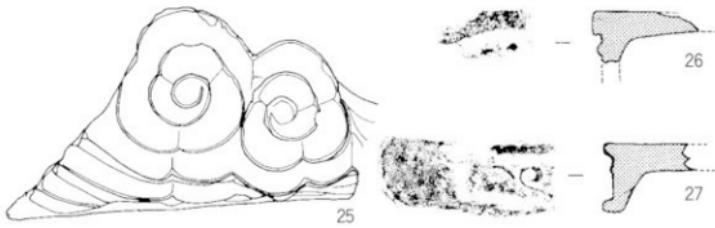


図4 出土遺物（2）

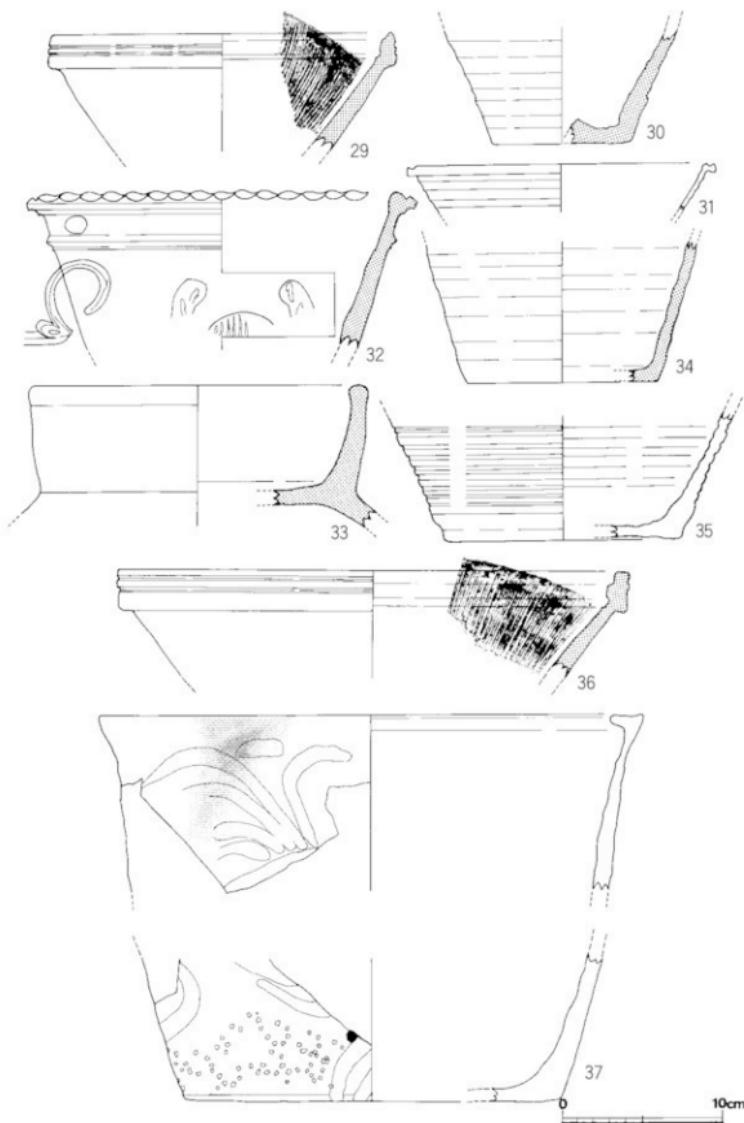


図5 出土遺物（3）

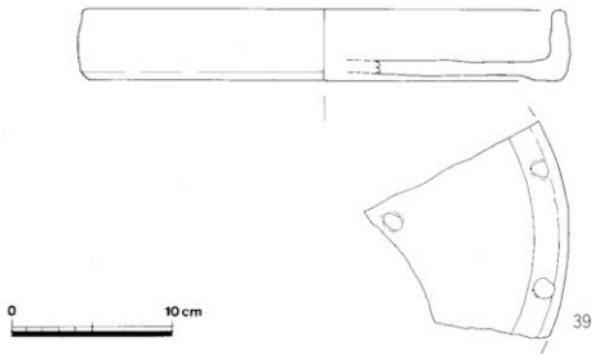
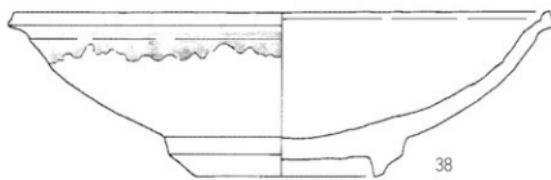
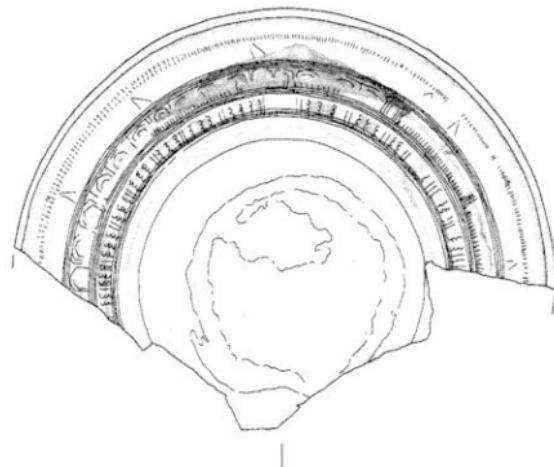


図6 出土遺物（4）

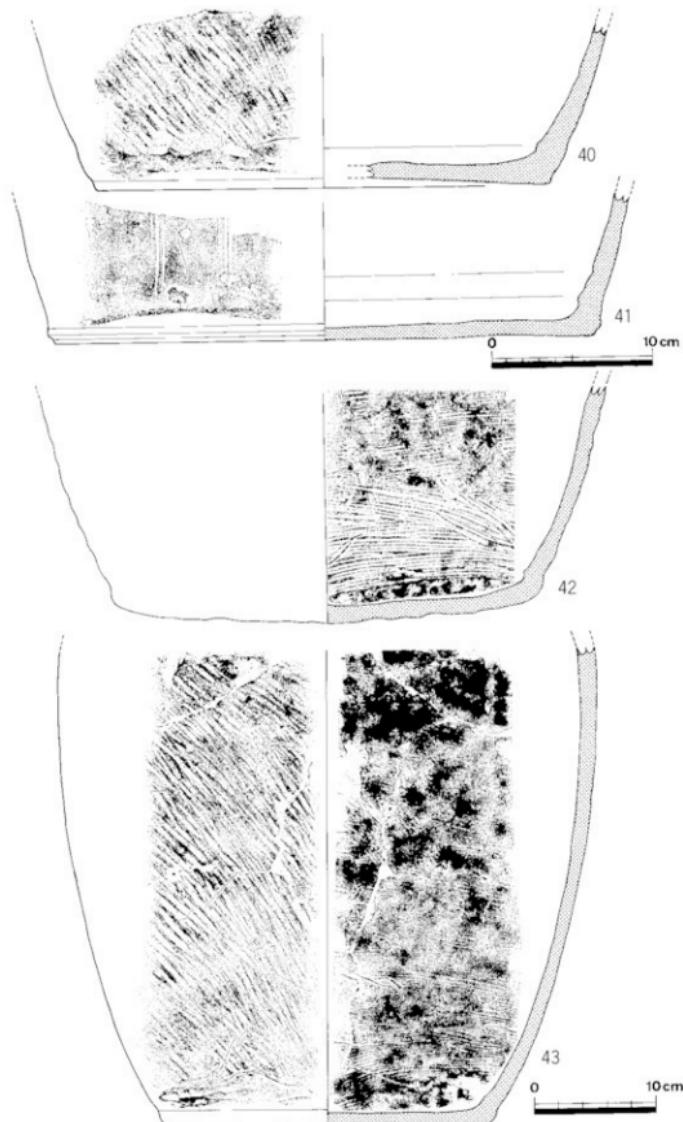


図7 出土遺物（5）

表1 出土遺物觀察表

図面 図版	遺構面・土層	遺構	器種	産地	法量 (cm)	施釉・文様等	備考
3-1 2-1	上層遺構包含層		磁器・小皿	肥前系。	口径9.0 基部径5.2 底径4.8 器高4.0	折線、染付透明・白色。一重角に輪。内面：6区画。区画内多弁花文。	浅丸型、底扱。18世紀。
3-2	上層遺構	遺構面直上	磁器・五寸皿		口径16.0 基部径8.8 底径8.6 残存高3.1	染付透明・乳白色。	平形。
3-3 2-3	上層遺構包含層		磁器・蓋	肥前系。	基部径3.6 底径3.0 残存高4.0	染付透明。	體張形。19世紀。
3-4	上層遺構	遺構面直上	磁器・小椀		口径8.6 残存高3.3	青色、染付。外面口縁部に2条線。草花模様。内面1条・2条線。	端反形。
3-5 2-5	上層遺構	土坑23	磁器・碗	肥前系。	基部径4.6 底径4.2 残存高3.9	透明釉。染付。	18世紀。
3-6 2-6	上層遺構	土坑9	磁器・碗	肥前系。峰值空。	高台径4.2 残存高2.7	外面2条線、高台部1条線。内面見込みに風文。高台裏に「大日本跡山空」跡あり。	18世紀。
3-7 2-7	上層遺構	ピット6	磁器・蓋	肥前系。	底径8.8 基部径30.0 器高2.2 かえり高0.2	染付透明・白色。桔梗(花文)。	18世紀。
3-8 2-8	上層遺構	土坑22	陶器・中椀	肥前系。	口径9.6 基部径4.8 底径4.6 器高6.2	染付透明釉。外面：草花文。高台周囲：輪文。	18世紀。
3-9 2-9	上層遺構	土坑23	磁器・中椀	肥前系。	高台径3.8 残存高4.2	透明釉。草花。	18世紀。
3-10 2-10	下層遺構	土坑13	土師質・紅猪口		口径6.1 高台径2.7 器高1.7	内外面、一部自然釉。	器形：菊花形。色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：ほぼ完形。
3-11 2-11	上層遺構	土坑14	磁器・中椀		口径9.4 基部径4.4 底径4.4 器高5.2	染付透明釉。草花文。	
3-12 2-12	上層遺構	土坑23	陶器・蓋	瀬戸美濃系。	底径4.8 残存高2.5	透明釉。	丸形。
3-13 2-13	上層遺構	土坑23	磁器・白磁中盤	肥前系。	口径12.6 高台径7.4 器高2.2	透明釉。	残存：1/2。
3-14 2-14	上層遺構	土坑23	磁器・大皿	肥前系。	口径24.2 高台径14.6 器高3.7	染付透明釉。見込：草花。内面周縁部：絞唐草花。外側：輪草葉。口縁部：輪花。高台部裏：「大明成化年製」跡。	残存：1/4。17世紀。
3-15	上層遺構	土坑23	土師質・土人形(ミニチュア笛吹き)		全長2.5 幅1.1 厚さ0.7		色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。
3-16 2-16	上層遺構	土坑11	土師質・土人形(ミニチュア笛子)		全長1.9 幅1.4 厚さ0.5		色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。
3-17 2-17	上層遺構	土坑9	陶器・小皿蓋	瀬戸美濃系。	口径(外径)3.8 口径(内径)2.6 残存高1.1	天井部外面、白色釉。	色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。つまみ欠損。
3-18 2-18	上層遺構	溝2	土師質・皿		口径6.0 器高1.5		色調：褐色。
3-19 2-19	上層遺構	土坑5	土師質・塗焼蓋	泉州産。	幅7.8 高さ1.4		色調：褐色。胎土：密。焼成：良好。残存：78%。内面に布目痕あり。18世紀。

因面 回版	造構面・土層	造構	器種	産地	法量 (cm)	施釉・文様等	備考
2-20	上層造構	土坑5	土師質・塗燒盞		口径6.4 残存高7.5		色調：褐色。18世紀。
3-21 2-21	上層造構	土坑9	鉢		長さ12.1 幅0.9		
3-22 2-22	上層造構	溝3	鉢		長さ5.9 幅1.6		
3-23 2-23	上層造構	土坑9	陶器・行平鍋	瀬戸美濃系	口径12.6 残存高4.7	内面・受部以外、透明釉。	色調：灰色。胎土：密。焼成：良好。18世紀。
3-24	上層造構	土坑23			口径27.4 残存高3.7		
4-25	上層造構	土坑14	瓦		残存長30.6 高さ17.4		
4-26 2-26	上層造構	土坑14	軒丸瓦		残存長6.9 残存高3.1		
4-27 2-27	上層造構	土坑14	軒平瓦		残存長6.7 高さ1.7	唐草文。	色調：淡褐色。胎土：密。焼成：良好。
4-28 3-28	上層造構	土坑24	陶器・水鉢	瀬戸美濃系	口径32.6 器高21.0	灰釉・緑釉。ヘラ描き流水文。 刺突文。	色調：乳白色。焼成：良好。
5-29 2-29	上層造構包 含層		擂鉢	昭彦。	口径21.4 残存高7.3	外面：白泥子巻り。口縁帶：3段。 内面、柳目。	色調：赤褐色。外面：灰かぶり。 18世紀。
5-30 3-30	上層造構	造構面直上	土師質・植木 鉢		底径8.2 残存高7.1		色調：褐色。焼成：良好。縁反 極形。底部無穿孔。
5-31 2-31	上層造構	造構面直上	陶器・行平鍋	瀬戸美濃系	口径19.2 基部径19.2 残存高3.0	透明釉。	18世紀。
5-32 3-32	上層造構	土坑12	鉢	昭彦。	口径24.4 残存高9.8		
5-33 2-33	上層造構	ピット7	瓦質・火車		底径20.8 残存高8.8	褐色釉。	色調：褐色。胎土：密。焼成： 良好。残存：口縁の1/2。
5-34	下層造構	土坑26（理 窓）	陶器・壺	丹波焼。	底径11.8 残存高8.7	铁釉。	色調：灰色。胎土：密。焼成： 良好。残存：底部1/8。
5-35 2-35	上層造構	土坑23	陶器・壺	丹波系？	底径14.8 残存高7.7		色調：暗灰色。
5-36 3-36	上層造構	土坑7	擂鉢	信楽焼。	口径32.0 残存高6.5	口縁帶：3段。内面、柳目。	色調：赤褐色。胎土：密。燒 成：良好。残存：口縁の1/2。 17世紀-18世紀。
5-37	上層造構	土坑23	陶器・水鉢	瀬戸美濃系	口径34.0 底径23.2 残存高20.2	外面、流水文・櫛描き刷毛文。 底部以外に灰釉・緑釉・褐色釉。	色調：灰色。18世紀。
6-38 3-38	上層造構	土坑23	陶器・盤	肥前系。	口径34.0 高台径11.1 器高10.2		色調：暗褐色。17世紀。
6-39	上層造構	土坑23	陶器・水盤		口径29.6 底径29.4 器高4.4	绿色釉。底目跡あり。	色調：白色。残存：口縁の1/5。
7-40 3-40	下層造構	土坑26（理 窓）			底径28.4 残存高9.6		色調：褐色。胎土：やや粗。 5mm以下の長石を多く含む。
7-41	下層造構	土坑26（理 窓）			底径32.6 残存高8.5		色調：褐色。
7-42 3-42	下層造構	土坑26（理 窓）	土師質・壺		底径25.0 残存高17.0	内面、カキ目調整。	色調：外-褐色。
7-43 3-43	上層造構	土坑22	土師質・壺		底径27.0 最大径44.0 残存高39.2	内面、カキ目調整。	色調：褐色。胎土：やや粗。 3mm以下の長石を多く含む。燒 成：良好。



a. 西調査区（東から）



b. 西調査区（西から）



c. 中央調査区（東から）



d. 中央調査区（西から）



e. 土坑 5（門扉柱痕）



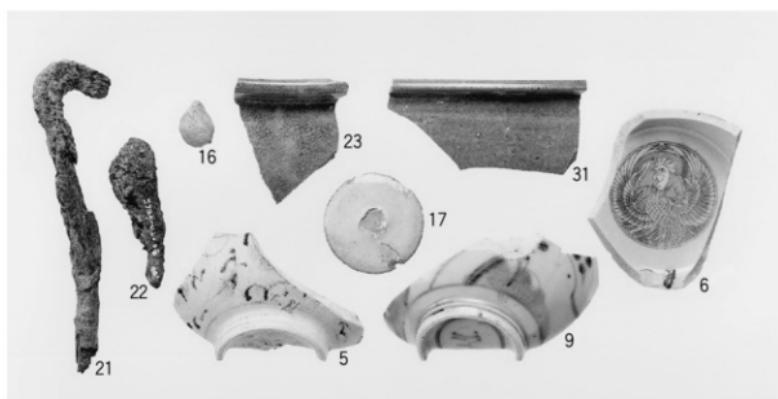
f. 土坑22埋甕（下層遺構）



g. 東調査区（東から）



h. 溝2断面（下層遺構）





## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせい14ねんどさやまはんじんやあとはくつちょうさほうこくしょⅡ							
書名	平成14年度狹山藩陣屋跡発掘調査報告書Ⅱ							
副書名								
シリーズ名	大阪狹山市文化財報告書							
シリーズ番号	27							
編著者名	植田隆司							
編集機関	大阪狹山市教育委員会							
所在地	〒589-0011 大阪府大阪狹山市狹山1丁目2384-1 T E L . 072-366-0011							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
所 収 遺 跡	所在 地	コ ー ド		北 緯	東 綏	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さやまはんじんやあと 狹山藩陣屋跡	おおさかふ おおさかさやまさやま 大阪府 大阪狹山市狹山	27231	—	34度 30分 11秒	135度 33分 30秒	20020620 / 20020729	250	共同住宅 建築に伴 う事前調 査
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物				
狹山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代（17世紀～19世紀）	建物跡・土坑・溝	陶器（盃・盤・水盤・壺・小壺蓋・水鉢・行平鍋）・磁器（小皿・五寸皿・中皿・大皿・盃・小椀・中椀・椀・蓋）・土師質（紅猪口・土人形・皿・塙焼壺・塙焼壺蓋・甕）・瓦質火車・擂鉢・鉢・鉄釘・軒丸瓦・軒平瓦				

大阪狭山市文化財報告書27

**平成14年度狭山藩陣屋跡発掘調査報告書 II**

発 行 日 平成15年(2003年)3月31日

編集・発行 大阪狭山市教育委員会

大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1

印 刷 橋本印刷株式会社

奈良県北葛城郡當麻町竹内365番地1号